

山形県農業土木職員の現場研修会の開催

最上川下流左岸農業水利事業所では、昨年に引き続き山形県庄内総合支庁農村計画課より山形県職員の技術力向上を目的に、国営事業最上川下流左岸地区の現場研修会の開催、現地説明を要望され、10月30日(金)に山形県の北部エリアに在席する若手県職員を中心とした総勢25名の参加により現場研修会を開催し、職員相互の技術力向上を行いました。

現場研修会では、はじめに、齋藤事業所長より今回の研修会の意義等の挨拶、続いて工事第一課長より当最上川下流左岸農業水利事業の計画内容や将来の果たすべき役割、また、現在実施している工事の設計段階における基礎工設計の概要について説明し、実際の現地にて事業所職員より施工状況説明し現場を見て頂きました。

当事業は国営事業のみならず、県営関連事業の実施により排水改良がなされ、維持管理費の軽減とともに、持続的かつ安定的な農業経営がなされることを目的としており、県職員に対しての理解醸成には絶好の機会を頂きました。

今回の現場研修は、現在工事実施中の毒蛇排水機場と中央排水機場にて行いましたが、基礎工法がボーリング調査により、地点固有の地盤状況で相違することが特徴的であるため、基礎工種の選定、N値の分部状況からの支持層の考え方などを説明し、毒蛇排水機場は軟弱地盤で支持層が60mでも適当な支持層がないことから、摩擦杭による鋼管ソイルセメント工法を選定、一方の中央排水機場では、上層部は軟弱地盤であるものの、10m以深において支持層となり得る層があることから、中層混合処理工でパワーブレンダー工法を選定したことなど、基礎形式を中心に説明、理解を深めて頂きました。



冒頭説明する齋藤所長



受講する県職員

○毒蛇排水機場にて現地説明



鋼管ソイルセメント杭工法



毒蛇排水機場基礎工施工(R2年3月)

○中央排水機場にて現地説明



パワーブレンダー工法



中央排水機場基礎工施工(R2年2月)